

第二回館山市議定会定例会會議録（第三号）



一、昭和五十六年六月二十三日（火曜日）午前十時

一、館山市役所議場

一、出席議員 二十三名

一番	神田 守隆	二番	石井 謀
四番	横溝 功	五番	福原 勳
七番	古賀 礼四郎	八番	石井 昌治
九番	松下 正己	一番	林 豊
二番	栗原 一雄	三番	近藤 好雄
四番	渡辺 昭夫	五番	伊藤 幸太郎
六番	押元 稔	七番	黒川 平治
八番	流山 源次郎	九番	石井 輝久
二〇番	石井 武敏	二二番	藤田 益治
二三番	菊井 敏博	二五番	五十嵐 昇
二六番	伊賀 多朗	二八番	安澤 徳順
二九番	安西 益男		

一、欠席議員 四名

二一番	吉田 勇治郎	二四番	和田 一郎
二七番	石井 正	三〇番	山口 康

一、出席説明員

第一号から選挙管理委員会事務局書記長を除く

一、出席事務局職員

第一号に同じ

一、議事日程（第三号）

昭和五十六年六月二十三日午前十時開議

議案第三十七号 館山市国民健康保険税条例の一部を

日程第一 議案第三十八号

改正する条例の制定について

館山市越地原一号線林道舗装事業分

担金徴収条例の制定について

館山市都市計画審議会条例の一部を

改正する条例の制定について

昭和五十六年度館山市一般会計補正

予算（第三号）

議案第四十一号 昭和五十六年度館山市水道事業特別

会計補正予算（第一号）

日程第三 請願第一号

請願書

開

議 午前十時三分開議

○議長（林 豊君） 本日の出席議員数二十三名、これより第二回市議会定例会第三日の会議を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

議案の上程

○議長（林 豊君） 日程第一、議案第三十七号乃至議案第三十九号の各議案を一括して議題といたします。

質疑応答

○議長（林 豊君） これより質疑に入ります。

通告がありますので、発言を許します。

二〇番議員石井武敏君。御登壇願います。

(二〇番議員石井武敏君登壇)

〇二〇番(石井武敏君) 議案の三十七号に關しまして御質問申し上げたいと思ひます。

市長の提案説明によりますと、三十七号に關しましては、「昭和五十五年国民健康保険会計は、出納閉鎖の結果、一億四千四百万余円の差引残金を生じ」というように御説明があります。私は差引金額の——これは五十六年度へ繰り越すことになっておる部分がございます、また税の軽減に充てるということでございますので、その処分の仕方、措置の仕方は賛成でございますが、一応、出納閉鎖の結果、差引残金の生じた理由の御説明をお願いしたいと思ひます。この点もうすでに通告してございます。

通告してございます質問の第二点目は、所得割の案分率の引き上げがあるけれども、これは社会一般の物価のスライド等を勘案いたしまして、その引き上げ率は妥当であるかどうかという質問でございます。

通告してございます第三点目は、被保険者の均等割額及び世帯別の平等割額の引き上げが多いと思ひますが、この点どう思ひますかという点です。

第四点目は、低所得者に対する基準を十七万円から十七万五千円に引き上げておりますが、その理由を御説明願ひたいというように通告してございます。

いずれにしましても、国民健康保険に關する税の軽減ということとは非常に大事なことであると思ひます。大事なことというよりも市民が非常に關心を寄せていることと思ひます。といひますのは、市民の生活費の中の占める国民健康保険税の割合というものの

が非常に過重になってきているというのが現状でございます。これは当市ばかりではございませんが……。

しかし、私は、この際この質を通過しまして、当市における国民健康保険税の現況と将来像を何らかの形で明らかにしてまいりたいというように存するものでございます。

御承知のように、国民健康保険の現況というものは非常に厳しいものがあります。その理由としてはいろいろ挙げられますが、社会保険に加入していた人たちがやがて年をとり、体力が衰えてから国保に加入してくる、国保に頼らざるを得なくなるというのが現状でございます。ですから、国民健康保険の加入者の分析をしてみますと、老人あるいは所得の少ない人が多いわけでございます。そういう点からしまして、非常に国民健康保険税の抱える問題は大きいわけでございます。

それに加えて、給付医療費の値上がりというものがございまして、この値上がりも確実に毎年毎年上がつてまいります。五十三年度の値上がりを見ますと、その値上がり率は二三・三%上がつておりますし、五十四年度は〇・一%で少なかったけれども、五十五年度は一二・五%であります。五十六年度見込まれる自然増としては一三%が見込まれております。このように毎年医療費の改定があるわけでございます。

しかも、わが市は非常に老人人口が多うございます。全国的に見ましても非常に多くの老人を抱えていることになります。国民健康保険の税の全体の中の老人がかかっているその医療費の割合は三〇%を超しております。しかし加入者の人数から推定しますと、その年寄りの人たちは一一%の人たちでございまして、一

一男の人たちが三〇以上の国保税を使っているということになるわけでございますので、そこでさまざまな将来的な問題が考えられるわけでございます。

一つは、国が現在——ことしの五月十五日に提案をいたしました老人保険法案の成立でございますが、これが期待できるわけでございますけれども、これが成立すれば、国保から一応老人医療の方は、七十歳以上は切り離されるということになると思います。そして、切り離れた老人保険の部分は国民全体でみてあげるといふようになりますが、それは国の施策でございます。さて、当市では具体的に国保税の軽減を図るために施策としては一体どうしたらいいんだろう、あるいはいまままでのようにやってきたんだろう、そしてどのような効果を上げたんだろうということが頭に浮かぶわけでございます。

いわゆる国保税の軽減、具体的に当市ができる、行政としてできる効果のあるもの、施策というものはないことはありません。また、当市としても取り組んでおられると思いますので、そのへんどのような状況であるかを、これは関連として付け加えて御質問申し上げますのでお答え願いたいと思います。

それから、議案の三十八号でございますが、ここには林道の舗装が載っております。すでに数点にわたり通告してあります点につきまして御質問いたすものでございます。

いわゆる林道の整備というものは、林業の振興を目的とすると思いますが、当市におきましては、林業と申しましては林業の町ではございませんので、さほど大きな事業はないわけであります。が、一応ここに説明がございまして、分担金の総額におきまして、

いわゆる県の補助金の額を引いた額の範囲内で市長が定めることとするというように分担金の取りきめがございまして、その範囲につきまして具体的な御説明を願いたいと思うものでございます。

また、分担金の延滞分の利息につきまして、また分担金を負担すべき受益者の範囲につきまして御説明を願いたいと思います。これらはすでに通告してございますので、私の通告に基づいて御説明をいただきたいと思います。

なお、鉾山市内におきます林業というものを、私は今回のこの質疑を通して概略理解をしてみたいというように質問の意図がございまして、付け加えて質問するわけでございますが、当市におきます森林の面積、そして民有林の面積、また人工林の面積、人工林の率、そして林道の密度、これらを質問に加えたと思います。これは通告してありませんので、わかる範囲で数字的にわかれば、お答え願えれば結構でございますので、よろしくお願いたしたいと思います。

以上、三十七号、三十八号につきまして御質問申し上げます。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 石井武敏議員の御質問にお答えをいたします。

出納閉鎖の結果、差し引き残金が生じたわけでございますけれども、その主な理由は、五十五年度予算編成に際しまして、国、県の指導により保険給付費の算出につきましては、医療費改定分として七・七割を含め計上してあったところでございますが、当年度中は医療費の改定もなく自然増のみで予算の執行ができたことが主な理由でございます。

所得割の案分率の引き上げについての御質問でございますが、ここ数年は百分の二百二十で据え置いたところでございますけれども、本年は医療費の増高等に伴い、調定見込額が前年比約一・一の増となりますので、所得割、被保険者均等割、世帯別平等割をそれぞれ引き上げざるを得ない実情でございます。

所得割の案分率を百分の二百二十五に引き上げますと、前年対比で二・三の引き上げとなります。

所得割の案分率を据え置きますと、資産割、被保険者均等割、世帯別平等割をもっと引き上げなければなりませんので、課税の配分を考慮しながら案分率を算出したわけでございます。

このように算出したしますので、物価とスライドするものではありませんが、必要最小限の引き上げでございますので御了承賜りたいと存じます。

被保険者の均等割、世帯別平等割についての御質問でございますが、昭和五十五年度に九千九百六十円を九千円に、また一万五千七百二十円を一万五千円にそれぞれ引き下げたのでございます。本年はこれらの額を引き上げざるを得ないわけでございます。

均等割は昭和五十五年度と比較して二〇の引き上げですが、昭和五十四年度との対比では八・四の引き上げになるわけでございます。世帯別平等割は昭和五十五年度と比較して八・五でございますが、昭和五十四年度との対比では三・一の引き上げになります。

先ほども申し上げましたように、所得割等との均衡を図りながら配分いたしましたので、これについては御了承賜りたいと思っております。

低所得者に対する基準を十七万円から十七万五千円に引き上げた理由についての御質問でございますが、低所得者に対する減額制度は昭和三十八年度に創設されたものでございますが、以後医療費の増高等に伴い国民健康保険税の負担も増加しておりますので逐年引き上げられているわけでございます。

昭和五十六年度も、地方税法の改正により、五千円引き上げられましたので、本市条例もこれにならない改正しようとするものでございます。

今後、保険税の高騰を防ぐために、医療費をなるべく少なくするような方向でどんなことをしているかという御質問でございます。これにつきましては、まず病気にかからないような予防をするということが大事でございますので、保健調査会等を通じて、あるいは医師会の御協力を得まして、各種の健康に関する講習会を催したり、あるいは地区別に健康に関する調査等を行いまして健康教育に努めているところでございます。

また、同時に乱診をしないようにという意味も含めまして、御本人に対する通知制度等も取り上げまして、本人にこれだけ医療費がかかったのかという自覚を持っていたく、そして乱診、乱療を防ぐような方法をとっていききたい。ほかに、成人病の検査とか、がん検診とか、いろいろな施策を行って、極力医療費の増高を防ぎたいと考えておるところでございます。

議案第三十八号についての御質問でございますが、本事業の受益者の人数は二十八名でございます。

「災害その他特別の事由があると認める場合は」というのは、地震、風水害等により被害を受けた場合と、その他特別の事由と

しては受益者が死亡し、継承人が分担金の納付の困難な場合等を考へております。

延滞金の利率につきましては、年一四・七厘でございます。日歩換算すると日歩四銭になります。なお、経過期間については年七・三厘で日歩換算二銭であります。

分担金の額の算定の根拠は、事業費の総額から興補助金の五〇多と市補助金二五多を除いた額二五多を分担金といいたしと考へております。

館山市の森林面積、自然林、人工林、その他の数字につきましては、経済部長より答弁申し上げます。

○経済部長（山田俊康君） 森林面積でございますが、四千七百七十六ヘクタール、民有林でございます。林野率は四三・五、人工林はそのうち千二百六十五ヘクタール、天然林二千七百六十八ヘクタール。

林道でございますけれども、林道、現在市で管理しておりますもの四路線、三千八十五メートルでございます。

○二〇番（石井武敏君） たいまい国保税に関するものと林道に関するものの御答弁をいただきました。

私は、今回の質疑を通して、国保税の軽減につながればという希望をもちまして、国保税に関する質疑を多少したいと思ひます。

ただいまの御答弁にありましたように、非常に当市としましては、いわゆる国保税にしまして、医者のかかり方、予防、乱診成人病、この三つの分野に分けましてたいまい御説明がございました。

確かに、私も現在行政でできる範囲というのは限られている。

国保税の軽減をしようとすれば、一般会計からの繰り入れをすれば簡単でございますが、そうばかりとは言えないと思ひます。それと並行しまして市民に認識していただき、協力していただき、軽減を図っていくという一つの方法が望ましいと思ひますし、ぜひそういう点強力に進めていただきたいということを御要望申し上げます。

まず、予防でございますが、保健調査会がでございます。これは保健調査会の役割と現在どのような仕事をなさっているか御説明願ひたいと思ひます。

また、講習会を開く、あるいは地区別に推進するということに御説明がありましたけれども、もう少し輪郭をはっきりさしていただきたいと思ひます。

また、乱診につきまして、本人に通知制度を設けるといふような、これは非常に新しい考え方、新しいやり方のように受け取りました。いままでやったことのない一つ進んだやり方であると思ひますので、この点につきましてももう少し具体的に——たとえば、これはこちらの台帳を見て、無差別に行うのか、具体的にどのような方法でこれを行うのか。本人に対する通知制度、これをもう少し明らかにしていただきたいと思ひます。

成人病に関しましては、いわゆる六十歳、七十歳になる以前に病氣の原因といひますか、傾向といひますか、そういうものは四十代に起こってくるように思ひますので、やはり四十代、五十代——四十代におきます成人病の発見と治療、そして健康づくりといひるのは非常に意義があると思ひます。この成人病対策につきま

して当市が行っている対策を具体的にお示し願いたいと思います。それから、林道のほうでございしますが、概略、わが市におきます内容が明らかになってまいりました。林道の路線としましては四路線ということで、三千八十五メートルですか、というように御説明がございました。四路線の舗装は現在どのようになっておりますか。県の昭和五十六年度の施策の中にはどのように折り込まれておりますか。県のほうではおそらく五十五年度から六十年間に至る農林関係の施策があると思います。その施策と照らし合わせてみますと、わが市の林道舗装はどのようになっておりますか。わかる範囲で結構ですからお答え願いたいと思います。

○民生部長（鈴木 力君） まず御質問の第一点でございますけれども、館山市保健調査会は、昭和四十二年に設立されて、今日いろいろと協議——健康管理あるいは健康教育に対するいろいろな取り扱い方の協議、あるいは実際の検診の実施にあたっていただいております。

この保健調査会の組織は、安房医師会の先生方が主体でございまして、それに関係する各種団体、官庁等が参画いたしました。会員は約六十名程度ありまして、各種団体の代表者の方がおるわけでございますが、ここでいろいろやっていただいておりますわけでございます。

事業といえましては、特に近年取り上げておる問題としては、いわゆる生涯教育、これは成人病対策だけでなく幼児から老人に至るまでの生涯教育というものを重視してやろうということで、取り上げております。

その中で、特に成人病予防対策としては胃集検——いわゆる胃

がんの予防対策、これを昭和四十二年から継続的に取り上げておりました。胃がんの、早期がんと早く発見して対処する、こういうことでございまして、たとえば五十五年度におきましては、総数でもって三千九名ですか、これだけの方が間接撮影を受けております。これに対しまして、要精検者に対しては精密検査を実施いたしました。その中で胃がんの早期がん、あるいは進行がんといふものをそれぞれ発見しておるような次第でございます。そのほかポリプとか胃潰瘍、胃炎、十二指腸潰瘍といふものも発見されて、それに要する治療もされております。

それから、なお最近におきましては、学童に対する過脂肪対策というものを取り上げていただきまして、教育委員会等をはじめ、各地域におきまして学校ごとにこの問題を実際に取り上げてやっておりますわけでございます。これにつきましてもかなり好成績を上げていっていることが言えると思います。

それから、最近、特に保健調査会といましては、各地区のコミュニティ委員会を通しての健康づくりを推進しておりますわけでございます。特に市内におきましては、館野地区、神戸地区、ことが非常に数多くの講演会、研修会等が実施されておりました。これをさらに全地区に及んでこの健康教育を推進しようということで、いろいろ対処しております。

そのほか、いろいろな検診事業に対し、保健調査会でやっておりますわけでございます。きわめて健康管理、健康教育の面におきましては大きな協力をいただいております。

それから、国民健康保険の医療費通知であります。これは厚生省のほうでこの制度を取り上げたわけでございまして、各都道



府県ごとに、あるいはまた各地域におきまして、それぞれ現在検討を加えておりまして、実施をしている都道府県、あるいは県下におきましても市があるわけでございますけれども、当市におきましては安房郡市の町村と歩調をそろえまして、同じような方法でやろうということで、何回か担当者集まりまして協議をしております。その間におきましては地元医師会の意見等も聞きまして、これから実施しようということでございまして、五十六年度におきましては一回ないし二回程度やろうということでございまして、内容的には、お医者さんにかかった医療費の内容を本人に通知し、このようにございまして。

それから、成人病対策でございますが、これにつきましてはただいま御説明申し上げましたように、特にがん検診、これは胃集検を通してのがん検診、なお婦人科検診——乳がん検診と子宮がんの検診、これを主眼としてやっております。

それから、あと循環器系の検診、特に血圧、あるいは心臓病に対する検診、これも住民検診——いわゆる結核検診の際に血圧測定をいたしまして、高い者に対してはそれぞれ精密検査をやるように、あるいは治療を行うような指導を実施しております。

それから、ここ二、三年、若年性高血圧という、これに対する予防という意味で、四十歳未満の方におきましても成人病に備えての検診、指導を行っておる次第でございます。

極めて雑駁でございますが、以上でございます。

○経済部長（山田俊康君） 林道の舗装計画の関係でございますが現在地元受益者等々と協議等を重ねておったわけでございますが四路線、この越地原一号线以外の路線についての舗装計画はござ

いません。

○二〇番（石井武敏君） ただいま御答弁をいただきまして、概略理解できました。

国民健康保険に關しましては、保健調査会を軸にいたしまして非常に充実した活動をなさっている、内容のある活動をなさっているというように御答弁からうかがえました。人数も六十人というたくさんの方々の人数の方々が組織なさっておるようでございますが、実際に年に何回ぐらいこれらの方々は会合を持たれるんでしょうか、御説明願いたいと思います。保健調査会の今後の期待に寄せるものが大でございますので、あえて御質問申し上げます。

先ほどの答弁にございました児童の過脂肪対策でございますが、これは非常に大事な問題であると思っておりますので、ぜひとも対策方を強化していただくように要望するものでございます。

また、先ほど何回か質疑がありました本人に対する通知制度でございますが、これは厚生省から流れてきて実施される段階に至っているように思いますが、五十六年度は一回か二回行おうということでございますけれども、かなりこれをやるのには費用がかかるように思うわけでございます。

たとえば、館山市全市の病院が患者に対して、全部来た人に発送することになりますと、大変な数になるんではないかと思えますが、背景になります予算措置について、私は非常に効果のある、あるいはいろんな点で期待のできる施策であるというように、非常にこの施策の重要性を感じますので、そこで背景となる予算措置につきましてどのようになっておりますか。

御説明によりますと、一年間の患者に対して、その患者の全部

に病院が発送する、あなたはことしこの病名で幾らかかっていますよ、これを発送する。おそろくこれも国民健康保険から七割、自己負担が三割でございすから、そのへんも明確に記入されまして、なるほどそんなに医者にかかっていたのかという認識がするものであらうと、その効果を狙ったものであらうと思いますが、予算措置につきましてひとつ御説明願いたいと思います。

それから、林道につきまして、現在建てられてゐる家とか、建築物に使われている資材、これは外材が非常に多いように私は思います。ですから、植林、造林という面できくと一体どのように考えたらいんだらうか。植林、造林をする以上に外材を買い付けたほうが安いという時代的な背景があるのではないだらうかと感じますので、そのへんはどのように当局としては解釈なさっておりますし、どうか御質問いたします。

私の質問はこれで三度目になりますので、特に国保税の軽減という問題は非常に關心を持ちますので、一般市民も關心を寄せておりますので、これにつきまして予防、乱診、成人病、この三点に分けて答弁がありましたけれども、それぞれの対策を強化していただきたいということを強く要望いたします。

御答弁を願います。

○経済部長(山田俊康君) 林業の問題でございすけれども、館山の林業そのものが先ほど申し上げましたように、人工林が千二百六十五、天然林が二千七百十八というような状態でございす。主なものといひますと、天然林の中では当然マテバシイとかナラとかというようなものが多いわけでございます。人工林は杉、ヒノキ、松等があるわけでございますが、松が大体なくなつてし

まっているというのが実情でございます。

雑木林が主となりましたので、過去のことを申し上げますと、薪炭というような、炭の需要もあったわけでございすけれども現在はシイタケの需要ということでいわゆるこれらの雑木林が使われているわけでございます。

五十五年度におきます造林事業といたしましては、杉が二・七ヘクタール、ヒノキが〇・五三ヘクタール、三・二三ヘクタールが造林されております。

植林育成事業ということで、ヘクタール当たり二万三千円ほど果から直接植林者に補助が出ております。こういった制度を大いに利用して、もっと造林を盛んにしていきたいというふうに考えております。

そのほかに、五十五年度は優良森林団地ということで、枝打ち伐採などを実際に神余地区で七・四五ヘクタール実施しているのが実情でございます。

○民生部長(鈴木 力君) 昭和五十五年度の保健調査会の開催数でございすけれども、打ち合わせ会、総会、すべて通しまして、検診の実施まで含めまして三十四回年間実施しております。

それから、国保の医療費の通知に対する予算措置でありますけれども、本年度におきましては主として郵便料等含めまして六十一万二千元を予算計上しております。

○議長(林 豊君) 以上で二〇番議員君の質疑を終わります。

次、一番議員神田守隆君御登壇願います。

(一番議員神田守隆君登壇)

○一番(神田守隆君) すでに通告してある諸点について御質問申

し上げます。

議案の第三十七号館山市国民健康保険税条例の一部を改正する条例についてであります。

当初予算に比べ、それぞれ本算定にあたって保険税軽減に努めたということが提案理由の中にそれぞれ述べられているわけですが、それでは保険税は五十五年度に比べてどうなるのかということが質問の第一点でありますけれども、先ほどの石井議員への答弁の中で、調定額で一・一〇というようなお答えが出ておりますので、この問題についての質問は省略をさせていただきます。

一億一千四百万円の差し引き残金が五十五年度において生じた結果的には五十五年度の保険税としては私は取らなくても済んだということであろうと思うわけがあります。私は、本来こうしたものは全額納税者に返すべきだというのが私の考え方でありまして、この基金への繰り入れ四千万円を全額税の軽減に充てたとなると、対前年度の値上げは調定額で何％に押さえられることになるのか、お聞かせいただきたいと思います。

次に、議案第三十九号館山市都市計画審議会条例の一部を改正する条例の制定についてであります。

都市計画審議会は、市議会議員あるいは学識経験者、関係職員から構成され、市長の諮問に応じ、都市計画に関することについて審議し、その結果を市長に答申する、こうしたものであるというふうに理解をするわけでありまして。私はこの都市計画審議会の活動の意義を市長がどのように認識をされているのかお伺いをしたいと思います。

特に、市長は必要があると考える場合は、都市計画法第十六条

に基づいて計画案を示し、公聴会を開くこともできるわけでありまして。都市計画行政を進めるにあたって、都市計画審議会における審議、あるいは公聴会の開催、これはそれぞれに意義のあるところだと思っております。市長は、都市計画審議会への諮問はどのような場合に、また公聴会はどのような場合に、それぞれの関連、あるいはその意義づけ、お考えなのかお聞かせ願いたいと思っております。答弁により再質問させていただきます。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 議案第三十七号の国保税についての御質問でございますが、基金に積み立てる四千万円を国保税の減税に振り向けたり何％程度の増で済むかという御質問でございますが、試算をしてみますと、一世帯当たり四・一％の増、一人当たり五・一％の増でございますので、全体として五％程度の増でとどまるものと考えます。

都市計画審議会の件でございますけれども、都市計画法に基づいた公聴会の開催は、重要な都市計画について広く住民の意見を聞いて、都市計画案にこれを反映させようとする意図のものでございます。

また、重要な都市計画といえますのは、通常次のようなものが挙げられております。

一つは、市街化区域及び市街化調整区域に関する都市計画を定める場合。第二には、用途区域を全般的に再検討する等、都市の将来を決定する場合。三点目といたしまして、道路網の全体的な再検討をする場合。四点目として、その他都市構造に大きく影響を及ぼす根幹的な施設を定める場合。こういったように決められて

いるわけでございまして、それぞれ市長が必要ありと決めたときに公聴会を開いたほうがよろしいというように理解をしております。

終ります。

○一番（神田守隆君） 全額を基金に繰り入れた場合には五・一％程度の増というお話で、そうするとかなり軽減が進むんだというように印象を持つわけで、現在出されている案では一一％の引き上げということでありますから、この基金への繰り入れというのは将来に向けての負担をするということと、さしあたって新年度の負担をどういうように考えるのかという、こうしたところからの問題だろうと思っております。

それで、この四千万円基金への繰り入れをされたということは、どういうような考え方で、どういうような論拠であえて四千万円になる——たとえゼロでもいいじゃないかという議論もあるだろうし、あるいは逆にもっとたくさん入れる必要があるんじゃないかという議論もあるだろうし、それぞれの議論があると思うんですけれども、あえて四千万円ということのお考えになったその根拠はどういうことなのかお聞かせ願いたいと思います。

それと、少し見方をかえまして、一一％の引き上げは、これは医者の立場から言いますと、医療費の改定分は前年度に比べて三％である、三％の医療費の改定が見込まれる、そうすると三％の医療費の改定等から自然増そういったものもあるかと思うんですけれども、一一％も値上げというのはどうも判然としないというように印象を持つわけであります。したがって、一一％になるということについては、医療費の改定以外にどういうような要因

が、それぞれ何々というように説明をされるのかお聞かせを願いたいと思います。

それと、都市計画審議会のほうですが、市長さんのお話で、公聴会それぞれどういう場合に開くかというように考え方が出されました。実は、館山市の都市計画行政というのは大変な曲がり角にあるのではないかと、そういう認識を持つわけで、それだけに公聴会というようにすることも今後十分考えていかなければならぬんじゃないかと思っております。

公聴会の開き方についての要綱が決定以降、私は開いたケースはいままでないんじゃないかと思えますけれども、今後のたとえば駅前開発問題とか、そうした重要なテーマでの調査をされているわけです。そういうときには当然住民の意向を反映していくというところで、公聴会についても前向きな検討で開催し、考えていく。いまのような指導で言うところと当然そういうふうに理解をしていいのかどうか、この点一つお聞かせ願いたいと思います。

○民生部長（鈴木 力君） 財政調整基金の積み立てでございますけれども、五十五年度におきましては一億一千万余りの歳計剰余金を生じたわけでございます。このうち当初予算におきまして繰越金を五千万計上してございまして、これもすべて減税に振り向けられた形になっておるわけでございます。

基金におきましては、毎年度の歳計剰余金の中の二分の一相当額を基金のほうに積み立てより、こういう当初からの方針がございまして、現在まで進んでおるわけでございまして、したがって五十五年度分の一億一千万のうち五千万円は当初予算におきまして減税に振り向け、残りの、四千万を基金に積み立てる、こ

ういう考え方でございます。

それから、本年度の税におきましては、一世帯当たりにつきまして約一・五の値上げということになるわけでございます。これにつきましては、医療費の改定につきましては一一・五当初予算でみたわけでございますが、これが実質的には、国におきましては二・五程度にとどめたい、これは薬価基準の引き上げ、あるいはまたさらには医薬材料の引き上げによりまして二・五からさらに〇・五一・五の程度が国におきまして医療費の改定の見込みでございますが、当市におきましては特殊事情がございます、特に老人医療費の高いことと、あるいはまた入院患者の入院費用が非常に高いという特殊事情も勘案いたしまして、三・五程度を医療費の改定を見込んだわけでございます。そのほか自然増、これが毎年あるわけであります、いわゆる受診率の増高、あるいは一件当たり費用額の増高、これらの増高を推計いたしまして、結果的には、保険税におきましては一・五程度の増加になる、こういうことでございます。

○経済部長（山田俊康君） 公聴会の開催でございますが、市長が申し上げましたように、重要な都市計画について広く住民の意見を聞くというようなたてまえから、今後におきまして必要があれば開催するという方向で……。

○一番（神田守隆君） まず国民健康保険税のことで、一億一千万円の剰余金ですか、基金への繰り入れは二分の一という規定からすると五千五百万相当を入れなければならぬということなんですけれども、それが四千万ということ、そのことがいいとか悪いとかということではなくて、四千万というのはどういう論拠で出

されたのかということとで質問したわけなんですけれども、どうも納得のいくような——計算の過程がわからないものですから、これは十分委員会の中で審議されていただきたいというふうに思っています。

この四千万という金額が出てきたなりには、将来の保険税の負担の問題等当然考えなければという数字というものは本来出てこないだろうと思うんです。そういう点から、十分な審議をお願いをいたしまして、またその点についてお答えできるようを話があれば御答弁願いたいと思います。

それと、一一・五の引き上げに対して、医療費の改定分は三・五、医者の方は三・五上がって保険税は一・五というのは住民の目から見て納得しがたいわけであります。自然増というお話あるんですけども、自然増は一体どのくらいあるのか、そういう具体的な数字を、そういうものを含めて一一・五という説明では説明にならないわけです。こうした数字をもう少し具体的に明示し願いたいということ。その点で、資料がなければしょうがないけれども、資料があればお答え願いたいと思います。

都市計画の問題については、これからずいぶん大きな問題たくさんあるわけで、私は公聴会などというような制度は大変重要な制度で今後その運営については大いに積極的に生かすべきではなからうかというような意見を持つわけで、具体的な問題の中で、こうした問題についての市長の考え方——一般論としては先ほど伺いましたけれども、具体的には市長がすべて判断するわけですから、重要だという判断は市長がするわけですから、具体的な問題の中で論議をしていきたいと思えます。この問題についてはそ

ういりわけで質問を終わります。

○民生部長（鈴木 力君） 本年度の療養給付費の増高でございませうけれども、総体で一六兆を当初見込んでおりまして、そのうちの三兆が医療費改定に伴うもの、そのほかの自然増これが一三兆でございませう。先ほど自然増のパーセントを申し上げませんでしたけれども、一三兆が自然増ということに相なるわけでございませう。

（「保険税の今後の動向との関係」との声あり）

○市長（半澤良一君） 実は、六千万円をどうするかということとは、大変政治的な配慮でございまして、特にこうだというはつきりした理由はございませんけれども、なるべく保険税を上げたくないという気持ちと同時に、やはり国保会計の健全な運営をするために、毎回申し上げておりますけれども、二億円程度の財政調整基金を積みたいというよりな考え方と、両方の極めて政治的な配慮で二千万円を減税に向け、四千万を財政調整基金にする。これを積みこむことによりまして、財政調整基金が一億三千八百万程度になりますので、なるべく無理のない数字を積み立てながら、なるべく早く——大変矛盾したことになりますけれども、二億程度に早くしたいという、そういう考え方でございます。

○議長（林 豊君） 以上で一番議員君の質疑を終わります。

以上で通告者による質疑は終わりますが、通告をしない議員で御質疑はございませんか。

○二六番（伊賀多朗君） 保険税のことと医療費のこととお話が出ておりました、これは自然増もありまじうけれども、患者の要求というのがだんだんそういう知識を持ってきてまいりまして、

いろいろな病気の知識、検査の知識、そういったことが盛んになってまいっているようなわけでございます。こういう検査ができないということになると、そういう検査をできる病院を紹介するとかということも出てまいりますし、そういう検査をしなかったとかということになると賠償金というような話も出てくることもありまして、大変な時代になって、そういう要求を全部館山市内で満たすわけにもいかぬのですけれども、そういうことも含めまして、ある意味では医者の方々が神経質になっている、落度があるってはいけないということも含んで、医療費やなんかの問題も出てくると思うわけなんですけれども。

先ほど出ました医療費の通知制度について、もう少し内容を詳しく説明していただきたいと思いますし、安房医師会と話し合いを何回くらい持たれたのか。

それから、保健調査会の、検診を含めて三十四回ということとでございましたが、保健調査会ではこの間も総会ございまして、事業計画をつくってみんなに承認を得たわけでございますが、総会もちろん結構ですし、事業計画も結構ですが、現場で——市役所の保健課の方もそうですし、医師会の人たちも大ぜいですし、大変回数も多く出て努力をしているわけでございますが、データをまとめるのにも医師会の中にそういう調査室、そういうものを設けてやっておるよりであります、三十四回というのは館山市だけと思うわけで、私もしっかりした根拠は持っていませんが、もっと多くはないだろうか、そういうことも伺いたいと思うんですが。

先ほどから、医療費の問題を含めて話が出ました予防医学とい

いますか、健康教育といえますか、そういうたことがもともとと盛んになっていくべきではないか。岩手県の無医村だった沢内村に病院ができて、国保が赤字で、無医村で医者がいなくて困っていた。死亡率が高かった。乳幼児、産後間もない婦人の死亡率が高かったのがゼロになった。保険会計も赤から黒になった、そういうような実績がございました、そういうのとは違いました、館山市におきましては医者の整備というのは、そういうところよりずっとできるはずでございます。そういう人を動員して健康教育、予防医学というのをもう少し進めて、総合検診ということをや安房郡の中でも何カ町村かですでにやっているようにございしますが、そういう運動といえますか、もう少し進めていただくほうがよろしいんではないかと思いますが、取りあえず医療費の通知制度についてももう少し説明願いたいと思います。

○民生部長（鈴木 力君） 医療費の通知制度につきましては、厚生省でもってこの制度を取り上げているわけでございまして、当市におきましては安房郡市の各町村と同一歩調で、同一の内容でもって実施しようということで、現在具体的に内容を検討しておりますわけでございます。

聞くところによりますと、いわゆる具体的な受診内容を知ることではなくて、総体的な、トータル的なものを各本人に通知する、こういうふうに聞いておるわけでございますが、詳細につきましては、ただいま資料を取り寄せてお答え申し上げます。医師会との話し合いにつきましても、医師会の理事さんとの間に二回ほど開催しておるといふことを聞いております。

それからもう一つ、保健調査会の実施の回数でございますが、

これは去る六月三日に保健調査会の総会がございまして、五十五年度の実施報告がなされておりまして、その内容から見ますと三十四回というふうなことで先ほど申し上げた次第でございます。

○二六番（伊賀多朗君） いままで腎臓の悪い人で、尿毒症なんかの人で、人工透析というふうなこともありましたが、これも最近大幅に減額になりました。是非々々といえますか、時代に合った正当な評価がされていくわけですけれども、何といたしまして健康教育、予防医学、予防検診、そういうたことがもともと盛んになるべきだと思うんですが、市長さんひとこと御感想を……

○市長（半澤良一君） 健康を守るのは——実は、自分の健康は自分で守るべきだというふうに私考えておりますけれども、しかし現実にはなかなかそういうふうにまいりませんので、やはりある程度そうした守りやすいような体制をつくるというのが——教育をするということ、それがやはり市の仕事だと思っております。そういう意味で今後とも健康教育に力を入れたり、予防、検診とか、そういうた制度を充実していきたい。個人個人が守りやすい環境づくりに努力したいと考えております。

○二六番（伊賀多朗君） トータルなことというお話がありましたが、そのへん資料を取り寄せてというところでございますので、わかりましたら教えていただきたいと思います。

それと、夜間急病診療所もできましたし、その前に夜間に、診療所じゃなくて、待機病院が待機しているということをやっております、前の市長もやっておりますが、半澤市長になってから大幅にそういう話し合いがございまして、現在そういう問題はな

いと思いますが、救急車のことで御質問いたしたいと思ひます。

タクシーがわりに使つてゐるわけではないかということでありまふ。大  
体当直が決まつてゐるわけでありまふ。救急車が教えてくれれば  
そこで診療するはずでございますが、それは市のほうでも御存じ  
のはずでございますが、救急車が教えてくれれば、その診療所な  
り病院はちゃんと受け入れをするはずでございます。そういうこ  
とを聞けば、救急車がいちいち出なくても、救急車が運ぶ必要が  
ある患者さんは運ばなければならぬと思ひますが、そのへんが  
さっきの乱診、乱療と同じように患者さんの要求が大変でござい  
まして、おかしくなつたから救急車、責任とつてくれるのかとい  
う状態、世相でございます。そのへん患者さんに対する教育を合  
わせてやつて、必要なときには救急車を使う、使わなければなら  
ない場合もあると思ひますけれども、使わなくてもいいときもあ  
るので、タクシーがわりに使うということではなくて、その診療  
所、病院なりに連絡だけはどうしていただく、それだけの御苦勞は  
お願いしなければならぬ。どこへ行つたらいいかということとは  
聞いてもらわなければならぬが、そうすれば自分で行けば行  
ける。タクシーがわりに使わないうでほしいという教育もお願い  
いたしたいと思ひます。

予防検診やら健康教育については、市長から大変結構な話を聞  
いたんで、ぜひそういう線に進めていただきたいと思ひます。

○民生部長（鈴木 力君） 医療費の通知につきましては、世帯主  
に對しまして、半年間あるいは一年間に一回、こういうようなこ  
とで医療費と保険税の額を世帯主にそれぞれ通知する、こういう  
こととでございます。

それから、なお先ほど医師会とこのことについての打ち合わせ  
を何回したかということでありまふが、医師会との間にいわゆる  
各市町村の担当課長との打ち合わせを三回開催してあります。そ  
れから歯科医師会と一回開催してあります。

○議長（林 豊君） 他に御質疑ありませんか。——御質疑なしと  
認めます。以上で質疑を終結いたします。

#### 委員会付託

○議長（林 豊君） ただいま議題となつております議案第三十七  
号乃至議案第三十九号の各議案はお手元に配付してあります議案  
付託表のとおりそれぞれ所管の常任委員会に付託をいたします。

#### 議案の上程

○議長（林 豊君） 日程第二、議案第四十号及び議案第四十一号  
昭和五十六年度館山市一般会計及び水道事業特別会計補正予算を  
一括して議題といたします。

#### 質疑応答

○議長（林 豊君） これより質疑に入ります。

通告がございましてので発言を許します。

一番議員神田守隆君。御登壇願ひます。

（一番議員神田守隆君登壇）

○一番（神田守隆君） 議案第四十号昭和五十六年度館山市一般会  
計補正予算第三号について御質問申し上げます。

千六百四十六万九千円の追加補正であります、その財源とし



て前年度剰余金を充てていますが、この前年度剰余金の見込みについてお聞かせを願いたいと思っております。

次に、出野尾、西長田地区住民との同意の条件として、この水道給水装置工事費等が出てきているわけでありますが、この住民との同意に至った経過について、住民との間ではし尿処理場だけということと合意していた経過もあるわけで、この住民との最初の合意からごみ処理場の建設についても同意を得るに至った経過について御説明を願いたいと思っております。

役所のやることは風向き次第で変わるといふ、住民の不信を残すことはなかったかどうか危惧をするわけで、お聞かせ願いたいと思います。

また、公害の問題など、特に煙害について不安を感じる一部の住民もあります。そうした心配はないと自信のほどを披露できるのかどうかお聞かせ願いたいと思います。

さらに、公園のようなし尿処理場ということがいわれていたと思うのですが、そうした構想は現時点においても信じてよいものなのかどうか、合わせてお伺いいたします。

以上、答弁によりまして再質問させていただきます。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 神田議員の御質問にお答えをいたします。

まず、議案第四十号の剰余金の件ですけれども、昭和五十五年度一般会計決算見込みの状況については、歳入総額九十一億六千九十七万余円、歳出総額八十六億八千二百三万余円で、形式収支見込みでは四億七千八百九十三万余円でございます。このうち継続費及び繰越事業費繰越額が二千五百九十三万余円でございます。

ので、実質収支見込みでは四億五千三百万余円となります。この金額が五十六年度の繰越見込額となるわけでございます。

次に、議案第四十号ごみ処理場建設についての同意を得た経過とそのための条件等についての御質問でございますが、まず経過についてでございますが、衛生センター建設の同意を得るとき、ごみ焼却場は併設しないというのが第一の条件でありましたので、他に候補地を得べく努力してまいりましたが、なかなか思うようにはいかどりませんでした。そして、またその間に衛生センターの用地を有効に活用すべきであるとの御意見も出てまいりました。市といたしましても用地の広さ、搬入道路等を考えれば何といたしましても大変もったいないわけでありまして、改めて出野尾、西長田地区の皆さんに事情をお話し、時間をかけて話し合いをいたしました結果、御了解をいただいたわけでございます。

条件につきましては、今回の補正予算でお願いしております各戸への蛇口一栓分の給水装置工事費と加入者分担金を市が負担するということが第一でございますが、そのほかに部落内農道等の生活関連道路の整備用原材料を交付すること。大気汚染防止等、周辺環境の保全を十分に考慮した施設とすること。万一公害等の実害が出た場合、責任をもって補償すること。故障した場合、即時操業を停止すること。施設周辺の公園化等、環境整備を行うこと。余熱利用で入浴設備を伴った厚生施設を建設すること。こういったような条件がございました。これらの条件はごみ処理施設稼働までに実施をする、そういうことになっているわけでございますので、誠意をもって実現を期していきたいと考えております。

○一番(神田守隆君) 繰越剰余金の問題ですけれども、大変剰余

金がふえているというよりな印象を持つわけです。過日の質疑の中でもそういった点での指摘が行われたと思うんですけども、ちなみに五十四年度が三億六千七百万ですか、五十三年度が一億七千四百万ということで、歳入に対する比率もそれぞれかなりのものの上がってきているわけで、こうした見方もできるわけで、決算剰余金がふえるということは、必ずしもあまり過大なものが出ることはないこととは思えないと思います。

私どものほうからみれば、歳入は不当に厳しく抑え気味に計上して、歳出は逆に少し過大に計上しておいて、いざ決算をやってみると剰余金がどっさり出たということで、これは見方によつては本来ある財源を隠してしまふ、へそくっているというのか、そういうよりな予算段階での勘ぐりもできるわけで、非常に健全なこととは思えないと思いますけれども、この点について市長さんどのような御所見をお持ちであるかお聞かせ願いたいと思うわけであります。

住民の同意とその経過についての問題ですが、おおむねわかるわけですけれども、その経過そのものから見ますと、初めからだいたい変わったわけで、その経過が住民との合意ということで進んだ——西長田、出野尾の全戸がこのことについて同意をされたというふうに理解をしてよろしいのかどうか。

それと、公園化というよりな問題で、先ほどの答弁の中でも、余熱利用の厚生施設をつくるのか、公園的な施設にするのか、こういうお話ですから結構なことで、ぜひそういうよりな施設——かつて処理場でデートができるような処理場、そういうよりなことで取り組まれているというお話も聞きましたけれども、ぜひそ

うい施設にしたいだきたいと思ひます。

そういう点から見ると、先だって、ここにつながる道路ができってくるわけですけれども、あの道路についての使用方法は専用道路だというよりなお話で、だとすると市民が公園のよりな施設があつて、厚生施設もあつて、気楽にそこに行ける、桜の花でも植わつていて花見でもできるといふよりな施設だとすれば、道路が専用道路といふのはどういふふうにつながるのかということですが、一般住民が利用できるよりな考慮されているのかどうか。ちょっと腑に落ちないので、そこらへんについての御説明をお願いしたいと思ひます。

○市長（半澤良一君） 剰余金を生じたことについての私の考え方ということですが、私もあまり多額な剰余金が出るということは、確かにそう望ましいことだとは考えておりませんが、この予算編成の段階ではそれぞれ厳密に歳入を計上し、また歳出も計上したわけでございます。これも市だけの考えだけではなくて、県の地方課等の歳入の見込み額、税収のことにつきましても、あるいは起債等についても指導を受けながらやっているわけでございまして、決してその歳入を厳しく見積もつたというわけでもございせんし、適正な歳入を見込み、また歳出もみているわけでございます。

五十五年度におきましては、たとえば船形小学校の校舎が、設計段階の十九学級が工事を実施する段階では将来を見通して十四学級でよくなつたというよりな不測の事態もございまして、また衛生センター事業の繰り延べといったよりなことも、五十六年度への繰り延べといったよりな不測の事態が起こつた結果、このよ

りな数字が出たわけでございまして、やむを得なかったというように考えておるわけでございます。

○民生部長（鈴木 力君） 今回のごみ処理場の建設用地の選定にあたりまして出野尾部落、それから西長田の部落の同意につきましては、部落全体の了解を得たというふうに考えております。

それから、道路の面でございすけれども、し尿、ごみの収集車の搬入用道路として建設いたしました。また、これから西長田よりの道路を建設するわけでございますが、一応し尿収集車、あるいはごみ収集車の専用道路として使うわけでございますけれども、一般住民の方々の使用につきましては、御利用いただくというところでございます。ただし、大型のダンプ、トラック等につきましては規制をしていきたい、こういうことでございます。

○議長（林 豊君） 以上で一番議員君の質疑を終わります。

以上で通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で御質疑はございませんか。

○七番（古賀礼四郎君） 一点お尋ねします。

四十号議案の出野尾部落等に対する千六百万円ですか——金額的なことは申しません——これは特定住民のメリットにつながるものであると思います。こういう地域エゴ、要するに公共事業なんかやるたびに地域的な住民が見返りを欲するというような風潮これが今後公共事業に非常に負担を来すと私は思います。こういう地域エゴというものが今後ますますふえてくるんではないか。

西長田、出野尾地区の方たちは、各種の税金等全額納められておりますか。税金も納めないで、権利だけを主張されるのは困るわけで、一般の財源から出すわけですから、一般市民も税金を負

担しているわけです、それがそちらのほうに使われるということ。はだんだん今後においても問題があると思いますので、この方たちの各種税金——調査された資料がございましたらお知らせ願いたいと思います。

○総務部長（石田雄一君） 古賀議員さんのただいまの質問でございすけれども、特に滞納の状況につきましては、所得金額、いわゆる滞納額のランクづけ等の分析はしてございますけれども、地域別といえますか、特にその地域での細分された——今回の出野尾地区というのは分析がないわけでございます。ただ、時間をちょうだいいたしますれば、ある程度の分析が可能でございすので、早速調査をしてみたいと思います。

○七番（古賀礼四郎君） 調査がまだなされていないということで……。こういうことをされるためには、やはり事前にそういう調査も必要ではないかと思ひます。至急調査をしていただきたいと思ひます。要望ですけれども。

こういうことを、だんだん、国も補助金の削減とかなんか盛んに考えているわけで、地方自治体においてもこういう補助金とか分担金、いろんな支出金は考えていかなきゃいけない時期に来ているのではないか。あまりまんべんなく——地域住民の、私はある程度エゴが最近蔓延してきたんではないかと思ひます。自分の部落さえよければいいというような要望があつては、市の財政にも負担を来すんではないかと思ひますので、今後十分検討してやっていただきたいということを要望して終わります。

○議長（林 豊君） 他に御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。以上で質疑を終結いたします。

## 委員会付託

○議長（林 豊君） たいい議題となつております議案第四十号及び議案第四十一号昭和五十六年度船山市一般会計及び水道事業特別会計補正予算は、お手元に配付してあります議案付託表のとおりそれぞれ所管の常任委員会に付託をいたします。

## 請願書の上程

○議長（林 豊君） 日程第三、請願第一号請願書を議題といたします。

請願書の朗読を願います。

（書記朗読）

## 請願書の趣旨説明

○議長（林 豊君） 朗読は終わりました。

次に、請願書について紹介議員の説明を求めます。

（二番議員石井 謙君登壇）

○二番（石井 謙君） たいい議題となつております請願第一号につきまして、紹介議員を代表いたしまして、請願の趣旨について御説明申し上げます。

たいい朗読したとおりですが、本請願については二件の要旨から請願されております。

第一といまして、預貯金金利を金融当局の意のままに一元的に決められるよう制度改正をしようとする動きがありますが、国民生活に深く根ざしている郵便貯金について、預金者の利益を

保護する現行の預貯金金利決定方式を存続させていただきたいというところでございます。

第二といまして、郵便貯金資金を地方開発促進のため、地方公共団体に直接融資ができるよう運用方法の改善をしていただきたいという要旨であります。

この理由といたしましては、お手元に配付いたしました請願書の理由にお示しをしておりますとおりであります。

各位の御理解により、ぜひとも採択を賜りますようお願い申し上げます。

○議長（林 豊君） 以上で説明は終わりました。

## 委員会付託

○議長（林 豊君） 本請願書につきましては、総務委員会に付託いたします。

## 延

会 午前十一時三十三分延会

○議長（林 豊君） お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって本日はこれにて延会することに決しました。

なお、明六月二十四日及び二十五日は委員会での議案審査のため休会、次会は六月二十六日午前十時開会といたします。その議事は、議案第三十七号乃至議案第四十一号等にかかる各委員会に

おける審査の経過並びに結果の報告、討論、採決及び追加議案の  
審議といたします。

○ 本日の会議に付した事件

一、議案第三十七号乃至議案第四十一号

一、請願第一号

